



# 国見っ子

令和元年度 第4号

国見町立国見小学校だより  
令和元年6月21日  
発行者 校長 菅野敏彦

## 5月家読カードを読ませてください

多くのご家庭から5月の家読カードを学校へ届けていただきました。1枚1枚読ませていただきました。家読カードに記されていた本の多くは読んだことはなかったのですが、私は、家族で同じ本を読むよさはこういうことなのかと、感想を読みながらしみじみと思いました。

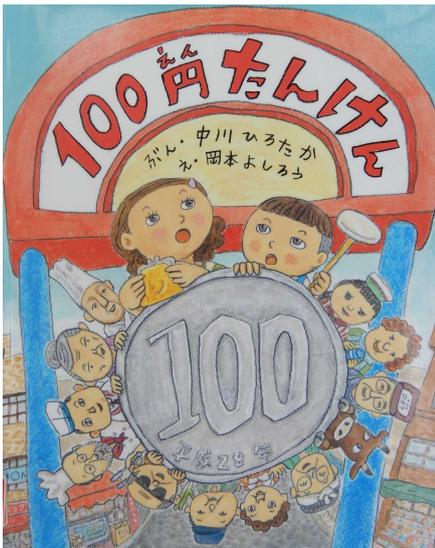
あるご家族は、おおかみがきつねのためにあなを掘ってあげた物語を読み、お子さんはおおかみはやさしいと思ったこと、お母さんは友達のために考えてしてあげることとはとてもいいことだと思ったこと、お父さんは友達の誕生日をサプライズで祝福しようとする気持ちと周りもそれを手伝う気持ちが素晴らしいと思ったことを、家読カードに書かれていました。

家読は、「家族団らんの中で読書を通してコミュニケーションを図り、本とのふれあい、家族のふれあいにより心豊かで健全な子どもが育つ」と言われています。このご家族は、1冊の同じ本を読んだことを通して、友達という共通テーマをみんなで考え家族の心のつながりをもたれました。家族にとって価値ある時間と場であったと思います。このことは家読をされたすべてのご家族に言えることです。

宮崎駿監督は、数年前の引退会見で「この世界は生きるに値する。それを子どもたちに伝えるために僕は映画をつくってきた」と述べました。私は、この言葉をお借りして「良書は、この世界は生きるに値することを子どもに伝える」と言いたいと思います。

読書は価値の高い素晴らしい活動です。ご家族で家読に取り組み、本を間に入れた家族のコミュニケーションをされるよう心よりお奨めします。

1～6年までの5月の家読カードを読んだあと、下の3冊を読みたくなったので、司書の菅野真由美先生に学校図書館からさがしてもらって家で読んでみました。3冊ともカードに書かれていた内容からもった期待通りの面白さで、読書を堪能することができました。



100円で買えるものをとことん調べていくお話。様々な店に体当たりで聞いていき、100円の商品を次から次へと紹介していくのがたいへん面白くて、あっという間に読んでしまいました。



アニーは大好きなおばあちゃんに生きてほしくて、無鉄砲ともいえる行動を繰り返します。でもアニーは、人間にはだれもが終わりがあることを理解していきます。少女の成長を優しく見守る家族愛に心を打たれました。



宮城県のカキ養殖業の筆者は、「森は海の恋人」を提唱し、海に注ぐ川の上流に植林活動を進めます。腐葉土を通った水が鉄分が含み栄養たっぷりになるからです。鉄分の大切さがよくわかりました。